防災特集

いざというとき 家族みんなですぐ避難

「警戒レベル３が発令された」「雨の降り方がいつもと違う」。そんなとき、家族みんなですぐに避難できるよう準備ができていますか？　ペットも含め、大切な家族の命を守るために日頃から準備しておきましょう。

問災害予防課（☎504-2664、FAX504-2802）、ペットに関することは動物愛護センター（☎243-6058、FAX243-6276）

危険な場所　あらかじめ知っておく

■ ハザードマップや市防災ポータルサイトを活用

ハザードマップを確認

自宅がある場所に色が塗られている場合は、災害の危険があります。

原則、自宅以外に避難が必要です。

ハザードマップを入手するには

ハザードマップは、市ホームページからダウンロードできます。また、区役所地域起こし推進課でも配布しています。　市HP ページ番号 11933

普段からインターネットを使っている人は「市防災ポータルサイト」をご利用ください。同サイトの「防災情報マップ」の中から、ハザードマップを確認できます。

避難場所　あらかじめ決めておく

■ ハザードマップや市防災ポータルサイト、「避難所へGo（ゴー）！」を活用

自宅が危険な場合は避難

避難先は、安全な場所にある次の場所を参考に検討しましょう。

- □親戚・知人宅
- □ホテル・旅館
- □学校など、市が指定した避難場所　など

いざというときにすぐに避難できるよう、あらかじめ避難先を決めておきましょう。　※安全な場所にいる場合は、避難する必要はありません

避難所は、ハザードマップや市防災ポータルサイトでも確認できますが、開設している避難所を速やかに確認するには、次のアプリが便利です。

避難誘導アプリ「避難所へGo！」

最寄りの避難所（開設中）へのルート表示機能や、避難情報・気象情報の通知機能があり、危険な場所の確認もできます。大雨に備えて、事前にダウンロードしておきましょう。

Android（アンドロイド）▶　ios▶

持ち出し品　玄関近くに常に用意

■ 防災ハンドブック「たちまち防災」などを活用

非常持ち出し品リスト

両手が使えるようリュックなどに入れて、家族の人数分用意しましょう。

- □水（500mlのペットボトル3本程度）
- □非常食（缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
- □懐中電灯・ヘッドライト
- □乾電池
- □衣類
- □簡易携帯トイレ
- □簡易寝袋
- □雨具（かっぱ）
- □お薬手帳
- □笛
- □携帯ラジオ
- □携帯電話用充電器
- □タオル
- □マスク
- □除菌シート
- □消毒液
- □現金（小銭を多めに）
- □健康保険証のコピー　など

※家族構成に応じて必要なものを追加しましょう

防災ハンドブック「たちまち防災」

非常持ち出し品リストのほか、防災について「たちまち」ここが知りたい！と思う情報が満載。市ホームページで閲覧・ダウンロードできるほか、区役所で配布しています。

市HP ページ番号 17942

ご用意を　感染症対策のための持ち出し品

できるだけマスクなどを持参しましょう。避難所にも用意がありますが、数に限りがあります。また、避難者同士の距離を保ち、近距離での会話は控えましょう。

避難所の過密状態を防ぐため、可能であれば安全な場所にある知人宅などへの避難を検討してください。

防災情報　最新情報を入手

■ 市防災情報メールや市公式SNSを活用

さまざまなツール（右参照）で、情報が発信されます。自分に合った方法で防災情報が手元に届くようにしておきましょう。

●市防災情報メール

●市LINE（ライン）公式アカウント

- ●避難誘導アプリ「避難所へGo！」
- ●市防災情報メール
- ●市公式SNS（Twitter（ツイッター）、Facebook（フェイスブック）、LINE（ライン））
- ●市防災ポータル
- ●テレビ（データ放送）
- ●防災行政無線（聴覚障害者用ファクス）
- ●緊急速報メール
- ●サイレン　など

ご注意を　気象警報や土砂災害警戒情報などは、8区ごとに発表されます

気象警報など（特別警報、警報、注意報）は、重大な災害が引き起こされる恐れのあるときに、広島地方気象台から発表される情報です。**土砂災害警戒情報**は、住民の自主避難の判断を支援するため、大雨による土砂災害の危険性が高まった場合に広島地方気象台と県が共同で発表する防災情報（警戒レベル４相当情報）です。

これらは、行政区ごと（8区ごと）に発表されます。

〈例〉安佐南区に大雨警報が発表された場合

※令和4年3月より、これまで広島市全域に発表されていた気象警報が、区ごとになりました

重要！　心構えが大切！ レベル4までに全員避難

- ●避難に時間がかかる高齢者や障害のある人は、**警戒レベル３**で危険な場所から避難しましょう
- ●**警戒レベル4**は、災害の恐れが高い状況です。危険な場所から全員避難しましょう
- ●**警戒レベル5**は、すでに安全な避難ができない、命が危険な状況です。レベル５の発令を待ってはいけません

警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
避難行動を確認	危険な場所から高齢者等は避難	危険な場所から全員避難	命の危険 直ちに安全確保
大雨・洪水・高潮注意報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
危険な区域、避難場所、避難経路の確認	避難に時間がかかる人は避難	非常持ち出し品を持ってすぐに避難	少しでも安全な行動を

警戒レベル4までに避難

※警戒レベル1は早期注意情報です。最新の防災情報を入手し、災害への心構えを高めましょう
※警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません

一緒に逃げよう！ ペットも家族の一員です

普段できること

日頃からペットの健康を保ち、習性や性格に合った飼い方を心掛けましょう。

1　健康状態を確認
- □狂犬病予防接種、各種ワクチンの接種
- □ノミやダニなどの寄生虫の予防・駆除

2　しつけ
- □ケージやキャリーバッグに入ることに慣れさせる
- □トイレは決めた場所でさせる
- □他人に慣れさせておく
- □（犬の場合）「待て」「おいで」「ハウス」などの基本的なことをしつける
- □（猫の場合）室内で飼育する

3　迷子対策
- □飼い主の連絡先を記入した迷子札やマイクロチップをつける
- □（犬の場合）首輪などに鑑札・狂犬病予防注射済票をつける

4　安全を確保する
- □ペットとの避難経路を確認する
- □留守中の発災に備えて、首輪や鎖、リードが外れたり、切れたりすることがないか点検する

5　ペット用の非常持ち出し品を用意
- □療法食・薬
- □フード・水
- □キャリーバッグ・ケージ
- □首輪・リード（伸びないもの）
- □トイレ用品・排泄物の処理用具
- □健康記録
- □ペットの写真（迷子になったときに必要）

一緒に避難できる頭数は限られています。飼う時には、適切な頭数にしましょう。家族と一緒に避難できない場合は、近所や飼い主仲間などにお願いしておきましょう。

同行避難

避難者に合わせ、警戒レベル３、４で。ペットとは同行避難が基本です。

いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。

飼い主が無事でいて、避難する場合にはペットと一緒（同行避難）が基本です。

原則、全ての避難所で同行避難できますが、人とペットの場所は分かれており、ペットは屋外飼育が基本です。

災害の状況やペットの種類によっては、ペットの受け入れができない施設があります。詳しくは、お住まいの区の地域起こし推進課へお問い合わせを。

同行避難のときの基本
- □犬はリードをつけ、首輪を調節（人の指１本入るぐらい）し、鑑札、狂犬病予防注射済票をつける
- □小型犬や猫はキャリーバッグやケージに入れる

ペットとあなたの災害対策ハンドブック

災害が起きたとき、大切なペットをどうしたらいいの？その疑問に答えるためにパンフレットを作成しました。市ホームページからダウンロードできるほか、動物愛護センターなどで配布しています。詳しい配布場所は市ホームページで。　市HP ページ番号 79

避難所では

避難者には、動物が苦手な人もいます。ルールを守って生活しましょう

避難所では、屋外で、飼い主が持参したケージなどに入れて飼育します。

避難所には、動物が苦手な人や動物に対してアレルギーを持っているいる人もいます。お互いが気持ちよく過ごせるよう、しつけやトイレなど、準備をしっかりしましょう。

不測の事態が起きても共に行動できるように

動物愛護センター 獣疫予防助手・田村さん

ペットを飼い始めたその日から、ペットの命は、飼い主に委ねられています。不測の事態が起きても共に行動できるよう、日頃から心掛けてください。

避難生活は、ペットにとっても大きなストレスになります。そんなとき、普段から慣れているケージなどがあれば、ペットの心を落ち着かせるだけではなく、飼い主の負担も減らすことができます。

しつけには、こつが必要ですが、言葉だけでは習得しづらいものです。訓練士やトレーナーに相談したり、動物愛護センターが開催する「犬のしつけ方・猫の飼い方教室」に参加して、こつをつかみましょう。

犬のしつけ方教室の様子

防災士が教える　災害時に慌てないための3つのポイント

1 日頃から天気をチェック

雨雲レーダーは、スマホで手軽に見ることができます。天気が悪くなってきたら、積極的に情報を収集して、今後の行動を考えましょう。

2 避難ルートの事前確認

避難に時間がかかる人は、警戒レベル３が発令されたら、ためらわずに避難することが大切です。自宅や職場、学校、よく行く買い物先からの避難ルートをチェックしましょう。

地図で確認したら、実際に歩いてみましょう。予定していた道は、浸水の危険が高いかもしれない、がけ崩れが起きたら通れないかもしれない。こういった情報は地図を眺めているだけでは分かりません。「この階段なら、足の悪いおじいちゃんでも行けるね」「この坂道は急だから、大雨の時に通るのはやめておこう」など、確認しておきましょう。

防災士
東区地域防災リーダー
三宅由紀子さん

3 ご近所との支え合い

避難所へ行くのに抵抗を感じることの理由に、「障害がある家族がいるから」「子どもが集団生活になじめそうにないから」という話を聞いたことがあります。命は何より大切です。気にしないでほしいのですが、実際にそういった人は少なくありません。少しでも抵抗感を減らすために、日頃から、ご近所さんや地域の人とコミュニケーションを取り、知ってもらうことが役に立つと思います。また、誰が避難所に来ても、「よう来たね」というねぎらいの気持ちや、温かい声掛けが大切だと思います。